

〔SPF 豚農場紹介〕

有限会社 八戸ファーム

農場長 宗 村 誠

1. 農場の設立

昭和62年3月神明畜産(株)の肉豚一貫生産農場として(有)八戸ファームを設立した。翌昭和63年4月着工。総工費約7億円。

豚舎は全棟ウィンドウレス。繁殖関係を奥に、肉豚の仕上舎を事務所近くに配置した。

堆肥舎は風向きを考慮し臭気が民家へ流れにくくしてある。町との公害防止協定で農場外への雨水汚水の流出は厳禁となっているため農場の外周に雨水用U字溝を設置。

交配舎が完成した10月から、(株)シムコ岩出山事業所よりSPF豚を5カ月間で660頭導入した。

2. 農場の概要

- ①所在：青森県三戸郡階上町大字道仏字天当平
- ②施設：表1のとおり
- ③飼育規模：母豚650頭，雄豚36頭
- ④従業員数：10名
- ⑤土地：4.7ha

生産方式は週単位ローテーションで毎週28腹離乳。離乳後も週単位を1グループとしてオールイン・オールアウトの週作業体制をとっている。

3. 豚舎構造

軽量鉄骨構造で、支柱は30cmのH型軽量鉄骨を使用。外壁はガルバリウム鋼板。天井には30mmのウレタンフォームに1mmのFRPを接着したものを使用。気流を考慮し入気部から中央まで出来

るだけ凹凸がないようにしてある。側壁は50mmのグラスウールにベニヤタイプ1型にオイルペイント仕上げ。床面から1mまではFRPで囲ってある。

床構造は、交配舎，受胎舎，子豚舎，肉豚舎がコンクリートスラット。分娩舎，離乳舎はトライバーを使用している。

換気システムは側面排気，軒下入気の陰圧換気方式。交配舎，受胎舎は一体式のオートバツフルを静圧計によって制御している。

分娩舎，離乳舎は週単位で間仕切りしており，各室が小さいため手でバツフル調整している。子豚舎，肉豚舎は全室オートバツフルになっているが，床下(ピット部分)がつながっているためうまく働かないことがある。

冬季用に軒下の外側に舎内に冷気の進入を和らげる工夫がしてある。

給餌システムは，交配，受胎，分娩，離乳，子豚舎にケーブルコンベアーを使用。肉豚舎はリキッドフィーディングを取り入れている。

出荷日齢が170日を切り，日増体量は650g以上となっている。

表1 施設の概要 (m²)

交配舎	1棟	900	子豚舎	2棟	1,500
受胎舎	1棟	648	肉豚舎	3棟	2,100
分娩舎	1棟	975	堆肥舎	2棟	1,600
離乳舎	1棟	1,014	汚水処理		一式

糞処理は、各豚舎より堆肥舎まで外気にふれることなくコンベアで搬送し、発酵処理している。

汚水処理は、スクリーンで固型分を荒取りし沈殿通路を通し、ばっ気槽へ投入。生物化学処理後、限外濾過幕、逆浸透膜で処理している。バッチ式のため連続処理は出来ない。

スラリー、スカムは脱水機で処理している。

4. 生産成績

生産に関しては、従業員全員が養豚経験がなくいろいろ苦労しながら仕事をやってきた。リキッドフィーディングの管理も圧送ポンプ、フィールドパイプの故障等いろいろ機械の修理も経験した。稼動後3年間は農場の成績も良い時期を過ごすことが出来た。

4年目から老齢豚の更新に入り、また又疾病にも見舞われ成績は右肩下がりとなった。

3年過ぎたころから人工授精を試験的に開始した。当初は希釈液をBTS、擬雌台を自作で始めたが、成績は良好とは言えなかった。現在は1回目本交、2回目3回目に人工授精を実施。精液も半分は購入精液、半分は自家採取精液で分娩率85%以上が期待できるようになった。

5. 疾病対策

2年前App2型の被害をうけた。

それまでは、さしたる疾病もなく離乳後出荷までの事故率が0.8%であったものが2.5%まで急増した。オールイン・オールアウトシステムの利点を生かして清浄区と非清浄区に区分し4カ月間にわたり対策を実施。その間にワクチン、投薬も併用した結果、清浄化することができた。

・ 繁殖豚データ

項目	1994年1月～12月
母豚保有数	629 頭
更新率	27.7%
雄豚保有数	45 頭
更新率	24.4%
年間分娩腹数	1,475 産
母豚回転率	2.34

子豚生産成績

項目	1994年1月～12月
分娩腹数	1,475 産
総産子数	17,470 頭
一腹当り	11.8頭
哺育開始頭数	15,739 頭
一腹当り	10.7頭
離乳腹数	1,440 腹
離乳頭数	14,659 頭
一腹当り	10.2頭
離乳育成率	95.3%
離乳頭数/母豚	23.3頭

肥育成績

項目	1994年1月～12月
肉豚出荷頭数	14,448 頭
母豚1頭当り	23.0頭
事故率	1.3%
平均出荷体重	107.5kg
平均出荷日齢	167.5日
肉豚飼料要求率	2.66
農場飼料要求率	3.16
上物率	60.9 %

6. 肉の販売

当農場は神明畜産㈱の100%子会社のため、肉豚は全頭“肉のしんめい”に出荷している。

最近では上物率70%、出荷体重110kgとなっている。肉のドリップも少ないとなかなかの評価を得ている。SPF豚でウインドウレスにリキッドフィーダーを取り入れたのが良かったのかどうか定かではないが、脂肪のしっかりした、ロース芯の太い、枝に深みのある大変良い豚に仕上がっている。最近肉質に変化をつけようと木酢やんにくパウダー等を試したが、特に変化をみることが出来なかった。因にミートセンターではこれ以上手を加えるなどしている。

今後の課題としては離乳を一週間に2グループ懸けることと、輸送距離が長く歩留りが他の農場に比べ低いので少しでも良くすることが出来ればと考えている。

(有)八戸ファーム見取図

